

# 株式会社エージーピー 2020年度第3四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2021.2.19

## 企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

## 長期ビジョン2025(骨子)

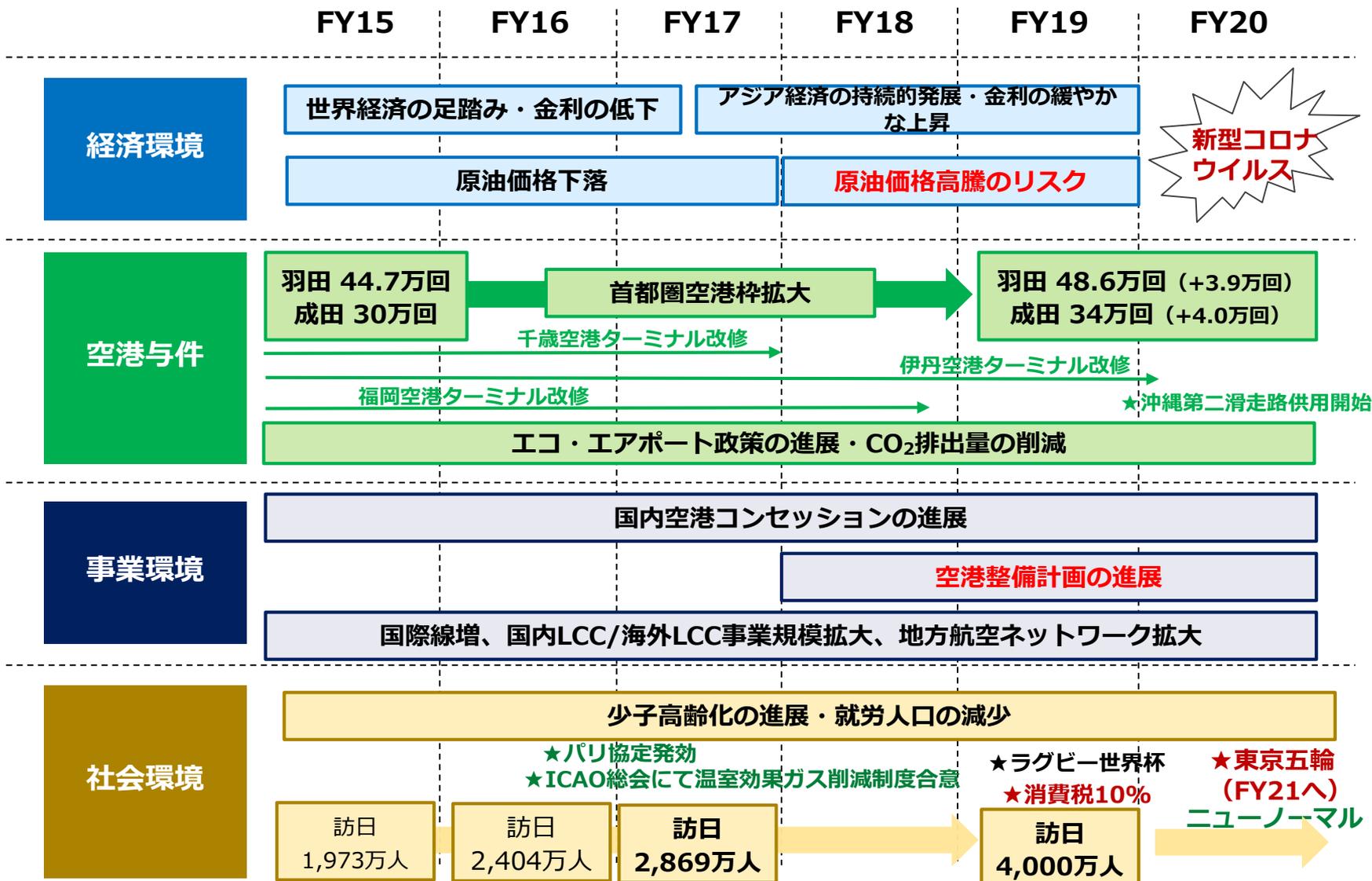
(2014.12.25策定)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

(注) GPU : Ground Power Unit (地上動力供給装置)

# 当社を取り巻く状況



# 2020年度第3四半期業績概要

- 対前年の2020年度第3四半期業績は、減収減益。  
コロナ禍において国際・国内ともに航空需要は大幅に縮小し、国内線は政府の各種施策等が実行され、一時的に回復傾向が見られたが、国際線の旅客便は回復が遅れ、動力事業は不調であった一方で、付帯事業のGSE等販売においては、パッセンジャーボーディングリフト等の機材販売で増収したが、全体では減収となった。
- 営業費用は、賃金制度の見直しにより人件費が増加したが、業務の効率化等による費用抑制、動力事業および整備事業の減収に伴う原材料費の減少、賃借料の減免等により全体では減少したが、動力事業の減収が影響し、営業損失となった。
- 対計画では、2020年度第3四半期の売上高は増収、営業損失は減少する結果となったが、感染症の更なる拡大も懸念され、今後の当社業績についても予断を許さない状況が続くことから、**通期業績は期初の業績見通しを据え置き**。
- 自己資本比率は60%を超え一時的に高止まり。

# 2020年度第3四半期業績サマリー



## 連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	増減額
営業収益	10,463	7,729	▲2,733
営業費用	9,657	8,017	▲1,640
営業損益	805	▲287	▲1,093
営業利益率 (%)	7.7%	-	-
経常損益	830	▲247	▲1,077
四半期純損益 <sup>1</sup>	567	▲174	▲742

## 営業収益内訳<sup>2</sup>

(単位：百万円)

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	増減額
動力事業	4,473	2,498	▲1,974
整備事業	2,507	1,993	▲513
施設事業	1,670	1,298	▲372
セキュリティ事業	504	408	▲95
フードシステム	207	145	▲62
新規事業	450	402	▲47
GSE等販売	649	981	+332
合計	10,463	7,729	▲2,733

## 連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

	2019年度 期末	2020年度 3Q実績	増減額
総資産	14,699	14,151	▲547
有利子負債残高	294	1,253	+959
自己資本	9,372	9,090	▲282
自己資本比率 (%)	63.8%	64.2%	+0.4pt
ROE (%)	5.4%	-	-

第3四半期時点では、対前年で減収減益。主力の動力事業が大幅減便継続で減収減益。対計画では、旅客便から貨物便への転用、GoToトラベル及び年末年始における国内線復便等により当社設備使用時間が増加、減収を抑え、想定範囲内となった。

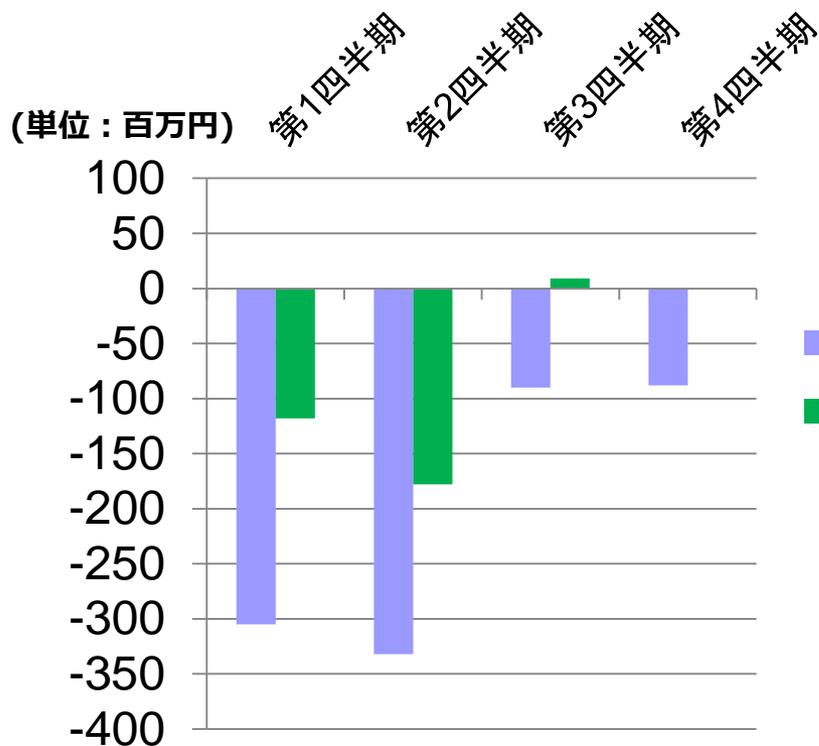
自己資本比率は64.2%  
(自己資本比率50%程度を目標に財務健全性を維持)

- 1 四半期純損益は親会社株主に帰属する四半期純損益
- 2 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示  
制度会計では整備事業と施設事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステム事業・新規事業・GSE等販売事業を合わせて付帯事業セグメントとしている

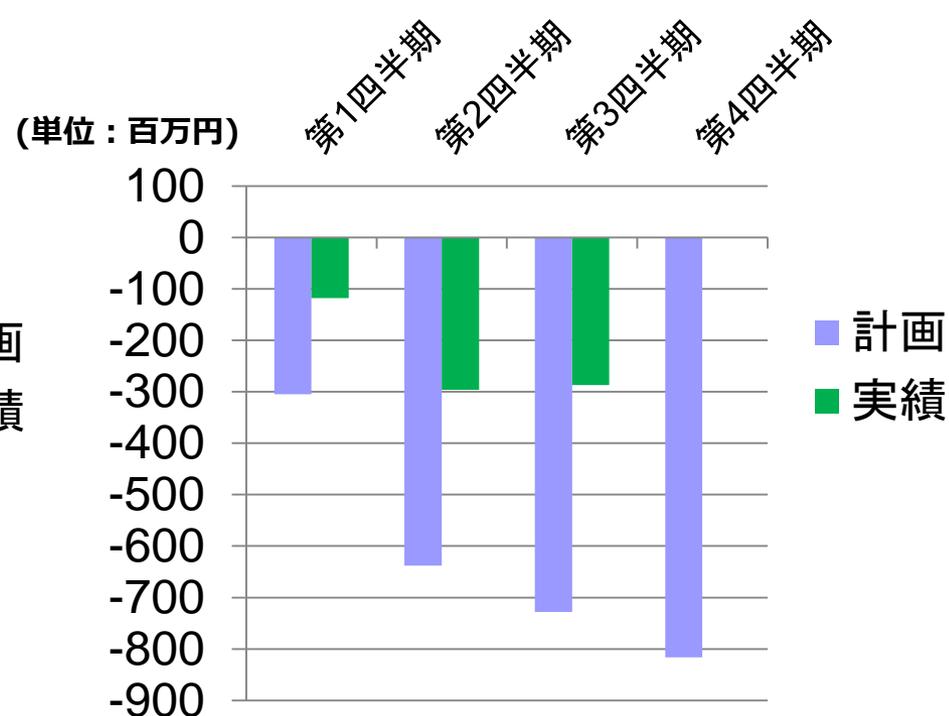
# 四半期営業損益の対計画進捗

営業損失が減少しているが、前期受注案件や今年度計画の前倒しによる増収が含まれていること、感染症の更なる拡大も懸念され、予断を許さない状況に変わりはない。緊急的なコスト抑制策の完遂と、働き方見直し等を含めた業務改善および効率化を更に加速させ、収支改善を図る。

## 各四半期業績



## 各四半期累計業績



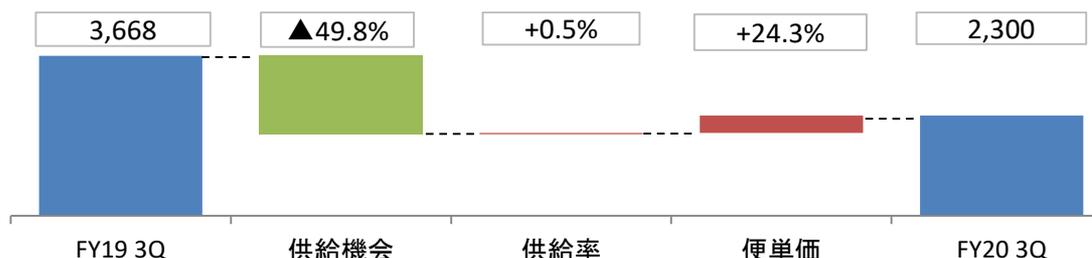
# 対前年電気収入増減要因分析

【動力事業】



## (対前年 動力電気収入増減要因分析)

(百万円)

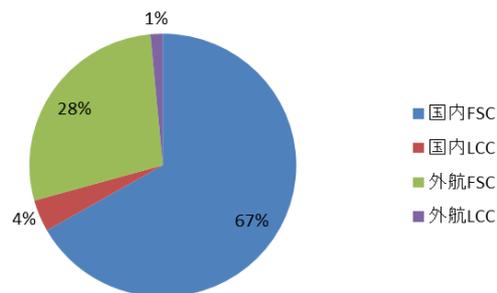


【Q3】

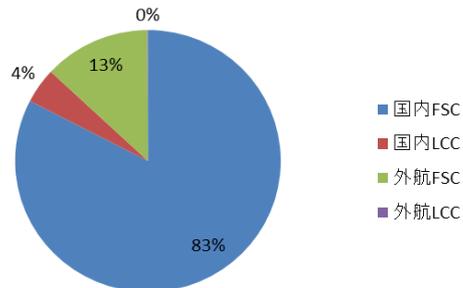
FY19 /FY20 3Q 電気収入比較【NGOを含む】

	電気 売上 (百万円)				供給機会 対前年比	供給率 前年差	便単価 対前年比
	FY19 3Q	FY20 3Q	差異	対前年比			
国内FSC	2,448	1,899	▲ 549	77.6%	60.4%	▲2.6pt	133.6%
国内LCC	143	100	▲ 43	69.7%	52.4%	3.9pt	118.3%
外航FSC	1,022	299	▲ 723	29.2%	25.6%	▲4.5pt	122.4%
外航LCC	54	2	▲ 52	3.7%	2.0%	12.4pt	101.9%
全体	3,668	2,300	▲ 1,368	62.7%	50.2%	0.3pt	124.3%

FY19 3Q 電気収入売上比率



FY20 3Q 電気収入売上比率



【FY19 3Q/FY20 3Q要因分析】

新型コロナウイルス感染症による運休・減便の影響で、供給機会は大幅減少が続いているが、旅客便の貨物便転用、メンテナンス供給などにより1便当たりの売上増加は継続。

4Q以降、国内線の再減便も見込まれるが、就航便を確実に取り込んでいく。

➤ 整備事業における空港外案件の拡大

(単位：百万円)

	FY19 3Q	FY20 3Q
空港内売上	1,995	1,397
空港外売上	512	597

空港内においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、旅客手荷物搬送設備に係る保守業務量等の減少が発生している。当社の技術力を基盤に、**空港外案件の拡大を目指す。**

\*空港内売上は空港会社、空港ビル、航空会社からの受注

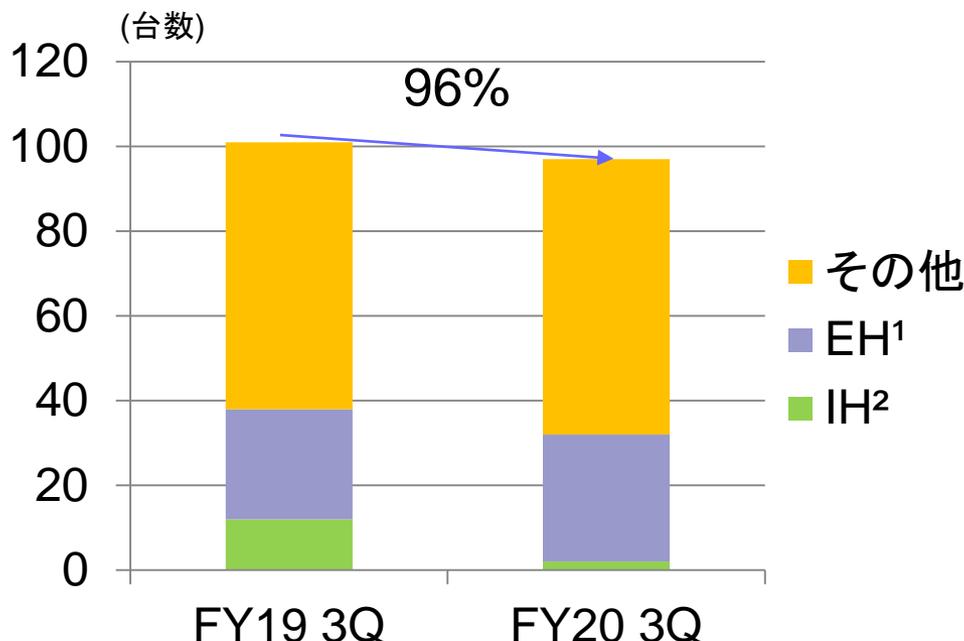
➤ セキュリティ事業における取扱機器台数の拡大

(単位：台)

	FY19 3Q		FY20 3Q	
	空港内	空港外	空港内	空港外
X線検査装置	211	153	244	137
金属探知機	144	50	132	45
爆発物検査装置	226	133	251	195
その他	67	0	95	11
合計	648	336	722	388

# フードカート販売状況

【付帯事業】



2020年度第3四半期迄のフードカート販売は、前年と比較して販売台数が4台減少した。

病院向けでは、EHカートの更新台数の増加、下膳カートの新規販売台数の増加があったものの、IHカートの更新台数が減少した。

病院以外では、各種カートの新規販売があったものの、保温・保冷カートの更新台数が減少した。

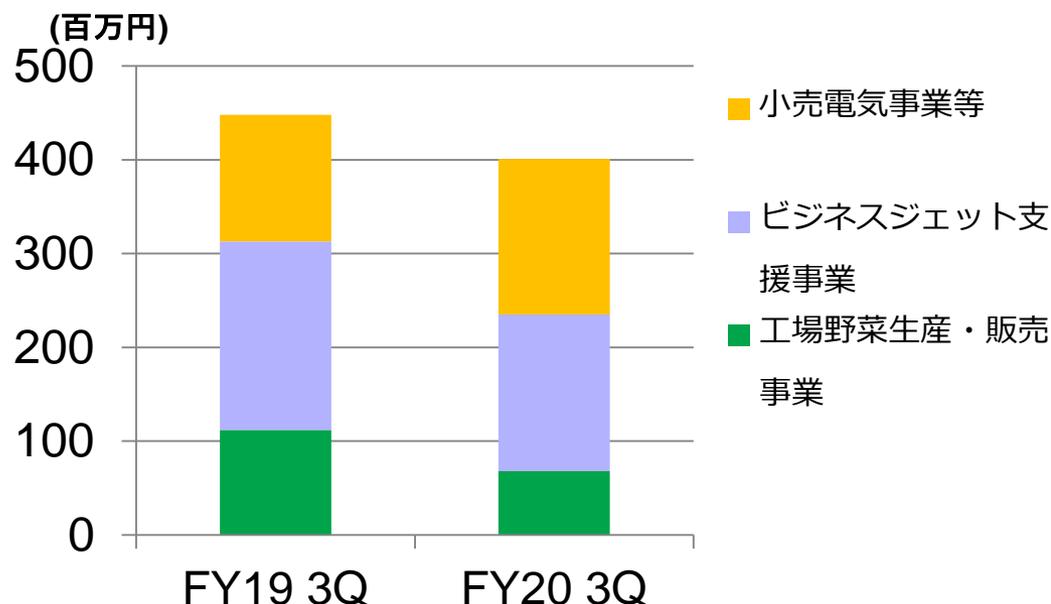
(件数/台数)	FY19 3Q	FY20 3Q	増減	備考
病院 (内リピート案件)	4件/25台 (3件/24台)	9件/44台 (6件/21台)	+5件/+19台 (+3件/▲3台)	
病院以外 (内リピート案件)	14件/76台 (13件/66台)	15件/53台 (9件/39台)	+1件/▲23台 (▲4件/▲27台)	
合計 (内リピート案件)	18件/101台 (16件/90台)	24件/97台 (15件/60台)	+6件/▲4台 (▲1件/▲30台)	

1 EH : ヒーター加熱でチルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート

2 IH : 電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応再加熱カート

# 新規事業売上高

【付帯事業】



B J 支援実績	FY19 3Q	FY20 3Q
定期駐機契約数	4機	4機
臨時(SPOT)駐機	67機	26機
クリーニングサービス	28回	11回
トイングサービス	354回	168回
N2供給サービス	39回	27回
O2供給サービス	26回	19回
ウォーターサービス	44回	19回
ラバトリサービス	45回	18回

レタス販売実績	FY19 3Q	FY20 3Q
業務用	61,633 k g	34,104 k g
店舗販売	99,297袋	89,855袋

## 小売電気販売状況

種別	契約合意件数		見積依頼件数	
	FY19期末	FY20 3Q	FY19期末	FY20 3Q
高压	137	154	959	1,035
低压	1,597	1,869	3,863	4,179

小売電気販売状況については、低圧、高圧ともに契約件数は増加しているものの、コロナ禍の影響により鈍化している。

\* 工場野菜生産・販売事業の譲渡につきましては、9月30日をもって、当社による事業運営は終了いたしました。

## 【12月】

連結子会社である株式会社エージーピー北海道、株式会社エージーピー開発、株式会社エージーピー関西、株式会社エージーピー九州は、2020年12月2日付で清算が終了したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

# その他

# 2020年度業績見通し



## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度 計画	増減額
売上高	14,742	9,553	▲5,189
営業費用	13,320	10,370	▲2,950
営業損益	1,422	▲816	▲2,238
営業利益率 (%)	9.6%	-	-
経常損益	1,446	▲758	▲2,205
当期純損益 <sup>1</sup>	498	▲808	▲1,307

## 営業収益内訳<sup>3</sup>

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度 計画	増減額
動力事業	5,776	2,723	▲3,052
整備事業	4,120	2,602	▲1,517
施設事業	2,361	1,597	▲764
セキュリティ事業	727	440	▲287
フードシステム 事業	372	353	▲18
新規事業	614	753	+138
GSE等販売 事業	769	1,081	+312
合計	14,742	9,553	▲5,189

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2019年度	2020年度 計画	増減額
総資産	14,699	13,751	▲948
有利子負債残高	294	1,180	+886
自己資本	9,372	8,382	▲990
自己資本比率 (%)	63.8%	61.0%	▲2.8pt
ROE (%) <sup>2</sup>	5.4%	-	-

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上高95億円を計画。厳しい経営環境下での生き残りをかけ、緊急かつ即効性ある収支改善施策の実行、空港外案件の拡大を図り、収支均衡を目指す。

1 当期純損益は親会社株主に帰属する当期純損益

2 (当期純利益\*) / (期首・期末平均自己資本)

\* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

# 2020年度の体制強化への取り組み

- 即効性のある収支改善施策と将来も見据えた抜本的なコスト構造の見直しなどにより安定的な事業継続への体制強化を推進する

## 業務構造改革推進委員会の設置（体制強化）

スコープ；タスクチームとの連携のうえで、新型コロナウイルス感染症への対応に加え、感染影響脱却後を見据えた現業部門における業務の構造的な課題抽出とその抜本的解決を目的

## タスクチームの設置（コスト抑制）

スコープ；緊急かつ即効性ある収支改善を目的とした各種検証、施策実行

＜人的対応＞

- ・ 余剰工数精査と業務量に応じた適正人員の再配置
- ・ マルチスキル化促進による生産性向上
- ・ 短時間勤務制度の導入
- ・ 不採算分野での供給工数削減(動力)
- ・ 一時帰休制度の導入

＜コスト抑制＞

- ・ 人件費における変動費抑制
- ・ 外部委託の圧縮(内製化)
- ・ 管理可能経費の徹底抑制
- ・ 原材料調達時のさらなる変動費圧縮、賃借料を始めとする固定費削減

コスト抑制の進捗における、管理可能経費については、不急の出張中止や外部委託をしている業務の内製化、交際費や広告宣伝費の抑制等、聖域のない費用削減施策を実行し、計画通り抑制されている。また、賃借料の減免についても課題は残るものの、一定の効果がでてきている。緊急的なコスト抑制策の完遂と働き方見直し等を含めた業務改善および効率化を更に加速させ、収支改善を図る。

## CO<sub>2</sub> 排出量の削減

(単位 : t-CO<sub>2</sub>)

(t-CO <sub>2</sub> )	FY18 削減実績	FY19 削減実績	FY20 3Q累計実績
CO <sub>2</sub> 削減量 *1	316,887	335,878	153,962

\*1 GPUの利用によるAPUからのCO<sub>2</sub>排出削減量

対象空港 : CTS・NRT・HND・NGO・ITM・KIX・UKB・HIJ・FUK・OKA

## エコ・エアポート活動 取り組み実績 (全支社・支店)

	FY18 活動実績	FY19 活動実績	FY20 3Q累計実績
活動項目 件数	96 件	113 件	23件

# 環境への取り組み 事例紹介

## エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



CTS エプロンクリーン活動



NRT エコドライブキャンペーン参加



NRT 空港周辺道路美化活動



ITM ごみゼロキャンペーン参加



KIX ごみゼロキャンペーン参加



NGO 空港クリーンアップ大会参加



AGPO 会社周辺クリーン活動



HND 職場周辺美化活動

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステム事業、新規事業、GSE等販売事業をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

## お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画部

電話:03-3747-1638

FAX:03-3747-0707

URL:<http://www.agpgroup.co.jp/>